



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和5年11月16日

長崎市立西北小学校

文責：校長 江原芳樹

第6号

「秋はいつだったのか?」、思い返してもわからない気候が続いていましたが、ようやく季節に合った空気を感じるようになりました。そして、冬の足音を感じるようになった途端、山吹色の石路（つわぶき）の花が季節に合わせて咲き始めました。花が少なくモノトーン色となるこの季節に、濃い黄色いその色は、ぱっと陽があたったように見えます。石路は、艶のある葉をもち、路に似ていることから「つやぶき」が言い変わった名前だと言われています。古くから庭園によく用いられてきました。日陰でもよく育ち、葉も花も濃い色をもち、手入れも簡単なことがその理由だそうです。

石路の花言葉は、「困難に傷つけられない」「先を見通す能力」「愛よ甦れ」です。なかなか先の見通しが難しい時代ですが、「困難に負けず、人とのつながりを大切に」とのメッセージを石路の花が発信しているようです。

図書ボランティア「パキラ」による図書館まつり

10月23日から11月2日まで、図書ボランティア「パキラ」さんによる、図書館まつりがありました。毎年、子どもたちが図書への関心を高めてくれるようにと、様々に工夫をして開催していただいています。

今年も、各学年に合わせた盛りだくさんの内容で、子どもたちのたくさんの笑顔を見ることができました。保護者の参観も多く、「子どもより心躍りました。」との感想にも出会うことができました。

図書ボランティア「パキラ」は、図書館まつりだけでなく、図書室の環境整備や各教室での読み語りなど、日常的に活動をされています。図書を通して、西北小の子どもたちを支えてもらっています。関心のある保護者の方がいましたら、職員室入り口に「パキラ」の資料がありますので、目を通してみませんか？



高学年向けの「漢字クイズ」



落語で言葉の楽しさを味わいました

使用している写真については、学校保管用です。

西北っ子の強み

11月に2つの大きな行事がありました。

6年生の修学旅行と4年生の小音会です。この2つの行事に向かう子どもたちの姿を見

ながら、西北っ子の強みに気づきました。

6年生の修学旅行では、自分たちで考え判断する場面がたくさんありました。もちろん、事前に時間やあるべき姿を確認していますが、それでもミスがあるのが生身の人間です。大切なのは、ミスの後の行動です。

6年生の姿は、ミスがあっても誤魔化さず、迷惑をかけた相手がいた場合はまずその相手に声をかけ、次の場面で必ず取り戻していました。なぜこうした行動ができるのか観察していると、ミスを指摘されて気づくのではなく、自分たちで気付いているからでした。つまり、意識して行動しているけどミスがあったということです。自分たちが目指している姿にすぐに戻ることができるのは、こうした意識が明確だったからです。

4年生の小音会では、体育館での学年全体練習の姿に西北っ子の強みを感じました。はじめての体育館練習のとき、音楽室ではあんなに堂々と歌声を響かせていたのに、それができませんでした。体育館が広いだけでなく、自分たちの構えが弱かったことに子どもたちは気付いていました。2回目の体育館練習では、様子が一変しました。練習の成果を自ら発揮しようとする姿に変わっていたのです。

この経験は、小音会の本番に生かされていました。ブリックホールでの練習は本番までありません。いわゆる「一発勝負」です。一度しかない出番に、できる限りの成果を発揮できたのは、体育館練習を通して、自分たちで変えることのできた経験があったからです。

「ミスは人を決めない。ミスのあとが人を決める。」、こんな言葉がありますが、西北っ子はミス（不十分）のあとに、成長した姿を見せてくれました。誇らしく、頼もしい姿でした。

《校長散歩道 No. 6》

11月になり、体力づくりとして、体育の時間に持久走がはじまりました。見てみると、一人ひとり、自分のペースで目標をもって取り組んでいます。周囲の仲間からの応援の声が響き、それで一層頑張っているようです。

「頑張ろうと努力する人でないと、応援できない。」

担任時代、私がよく子どもたちへの激励の意味で使っていた言葉です。

日本社会のグローバル化がすすみ、他国から見た日本という視点で報道されることが多くなりました。日本を知る意味で大切な視点だと思うのですが、新しい視点で見たからこそ、気付く価値もあります。

ある番組で、「日本のここが不思議」とのタイトルで、在日外国人の意見が述べられていました。その中に「日本人は、マラソンなど頑張っている人に、『頑張れ！』とさらに求めている。」との意見がありました。日本人のコーディネーターも賛同意見を述べています。「日本人は、頑張ることを強要し過ぎだ。」というのです。

私たちが使う「頑張れ！」は、共感的なものです。相手が頑張っていないから強要しているのではなく、頑張っていることを理解しているからこそその称賛でもあります。持久走で聞こえる「がんばれ」は、仲間を認め励ます言葉です。

「頑張れ！」、大人である私たちが発するこの言葉を、子どもが励みとして成長していく関係でありたいと願います。